

花のつくり

4月第2週、配当2時間

【学習指導要領との関連】B(1)植物の発芽、成長、結実 ア(イ)、イ

【単元の目標】 植物の結実のようすに着目して、植物の花のつくりや結実を調べることを通して、植物の結実についての理解をはかり、観察などに関する技能を身につけるとともに、おもに予想や仮説をもとに、解決の方法を発想する力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。	【単元の評価規準】※ 知①／花にはおしべやめしほなどがあり、花粉がめしほの先につくとめしほのもとが実になり、実の中に種子ができるなどを理解している。 知②／植物の花のつくりや結実について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択し、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	思①／植物の花のつくりや結実について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／植物の花のつくりや結実について、観察、実験などから得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。	態①／植物の花のつくりや結実についての事物・現象に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／植物の花のつくりや結実について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
---	--	---	---

※各観点の評価は、「花のつくり」「4. 花から実へ」を通して計画している。

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
第1次	1 ・ 2	花のつくり アブラナの花が咲いた後、実はどこにできるの だろうか。 観察1 アブラナの花と実	思		思①／植物の花や実のつくりについて問題を見いだし、自分の考えを表現しているかを確認する。（発言・記述分析）	既習内容を生かして、花や実のつくりについて具体的な問題を見いだし、自分の考えを表現している。	実物のアブラナを見せたり、キャベツやダイコンなど、アブラナの仲間の野菜の花が咲いている写真を見せたりして、花や実のつくりに着目させる。
			知		知②／虫眼鏡やピンセットなどの器具を目的に応じて用意し、正しく扱いながら、花と実のつくりを観察しているかを確認する。（行動観察・記録分析）	虫眼鏡やピンセットなどの器具を正しく扱いながら、花と実のつくりを観察し、花と実を比較して結果をまとめている。	虫眼鏡の正しい使い方を確認させる。ピンセットの適切な扱い方を指導する（花びらやめしほ、おしべを取り分ける際には、つけ根近くをはさむ）。
			知	○	知①／アブラナの花には、1つの花にめしほやおしほがあり、花びらが散った後、めしほのもとが育って実になることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	アブラナの花には、1つの花に、めしほやおしほ、花びら、がくがあり、花びらが散った後、めしほのもとが育って実になることを理解している。	花びらやがくを外した上で、めしほと咲き終わった花の形状を比べさせ、形状が似ていることから、めしほのもとの膨らんだ部分が育って実になることを予想できるようにする。
			態		態①／ヘチマに興味をもち、育て方を調べたり、栽培計画を立てたりしているかを確認する。（行動観察・発言・記述分析）	3、4年での栽培の経験を生かしながら、意欲的に、ヘチマの育て方を調べたり、栽培計画を立てたりしている。	前年度に育ったヘチマの写真や、実や種子の実物を見せて、栽培・観察への意欲をもたせる。

1. 植物の発芽と成長

4月第3週～、13時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】B(1)植物の発芽、成長、結実 ア(ア)(イ)(ウ)、イ

【単元の目標】		【単元の評価規準】		【思】	
植物の発芽や成長のようすに着目して、それらにかかわる条件を制御しながら、植物の育ち方を調べることを通して、植物の発芽や成長とその条件についての理解をはかり、観察、実験などに関する技能を身につけるとともに、おもに予想や仮説をもとに、解決の方法を発想する力や命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。		知①／植物は、種子の中の養分をもとにして発芽することを理解している。 知②／植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していることを理解している。 知③／植物の成長には、日光や肥料などが関係していることを理解している。 知④／植物の発芽や成長について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択し、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。		思①／植物の発芽や成長について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／植物の発芽や成長について、観察、実験などから得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。	態①／植物の発芽や成長についての事物・現象に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／植物の発芽や成長について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	植物の発芽と成長 植物は、どのような条件がそろえば、発芽し、成長するのだろうか。	思		思①／植物の発芽と成長について問題を見いだし、自分の考えを表現しているかを確認する。（発言・記述分析）	栽培経験や春の植物のようすをもとに、植物の発芽と成長について具体的な問題を見いだし、自分の考えを表現している。	植物に水やりをした経験を思い出させたり、春になってあたたかくなると植物が芽生えることに着目させたりする。
第1次	2 ・ 3 ・ 4	種子が発芽する条件 種子が発芽するには、水が必要なのだろうか。 実験1 水と発芽の関係	思	○	思①／植物の発芽について予想や仮説をもち、条件に着目しながら解決の方法を発想し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	植物の発芽について既習内容や生活経験をもとに予想や仮説をもち、条件に着目しながら実験を計画し、表現している。	発芽の条件を提示し、明らかにしたい条件だけを変える方法に見通しをもたせるように指導する。
	5 ・ 6	種子が発芽するには、水のほかに、適当な温度や空気も必要なのだろうか。 実験2 温度や空気と発芽の関係	思	○	思②／植物の発芽について、実験結果をもとに条件と関係づけて考察し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	植物の発芽について、ほかのグループの実験結果も参考にしながら、条件と関係づけて考察し、表現している。	実験結果を自分の予想や仮説をもとに振り返り、水・適当な温度・空気のそれぞれについて、発芽の条件として、結果からわかるることを確認していく。
			知	○	知②／植物の発芽には、水・温度・空気が関係していることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	植物の発芽には、水・温度・空気が関係していることを理解し、インゲンマメの発芽には、日光は必要ないこともとらえている。	これまでの記録を振り返らせながら、植物の発芽には、水・適当な温度・空気が必要であることを押さえる。
			態	○	態①／植物の発芽に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	植物の発芽に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら、発芽に必要な条件を季節や環境と結びつけて調べようとしている。	「水に浸けるのは、空気に触れないため」「冷蔵庫に入れるのは、冬のように寒い状態にするため」といった理由を1人ひとりが把握し、主体的に実験に取り組むことができるようとする。
第2次	7 ・ 8	種子の発芽と養分 子葉がしほんでいくのは、どうしてだろうか。 実験3 子葉にふくまれる養分の変化	知		知④／ヨウ素液などを目的に応じて用意し、安全に正しく使って観察し、記録しているかを確認する。（行動観察・記録分析）	ヨウ素液などを適切に使って観察し、種子としほんだ子葉の反応の違いに着目しながら記録している。	教科書の「でんぶんの調べ方」を示しながら、でんぶんが含まれていれば、ヨウ素液の色が変化することを確認し、ヨウ素液をつける部分や保護眼鏡をかけることなどを指導する。
			知	○	知①／植物は、種子の中の養分をもとにして発芽することを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	植物は、種子の中の養分をもとにして発芽することを、子葉の変化などと結びつけて理解している。	肥料を与えなくても種子が発芽したことや、発芽後の子葉がしほんでいくことから、種子の中の養分を使って発芽し、成長したことを理解させる。
第3次	9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	植物が成長する条件 子葉が取れた植物が、さらに成長するには、どんな条件が必要なのだろうか。 実験4 日光や肥料と植物の成長	思		思①／植物の成長について予想や仮説をもち、条件に着目しながら実験を計画し、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）	植物の成長について既習内容や生活経験をもとに予想や仮説をもち、条件に着目しながら実験を計画し、適切に表現している。	考えられる成長の条件を提示し、明らかにしたい条件だけをえて、実験計画を立てるように指導する。
			思		思②／植物の成長について、実験結果をもとに条件と関係づけて考察し、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）	植物の成長について、実験結果をもとに条件と関係づけて考察し、これまでの栽培経験にも触れながら表現している。	実験結果を自分の予想や仮説をもとに振り返り、成長の条件として調べた日光と肥料について、結果からわかるることを確認していく。
			知	○	知③／植物の成長には、日光や肥料などが関係していることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	植物の成長には、発芽の条件のほかに日光や肥料が関係していることを、日常生活と関連づけて理解している。	これまでの記録を振り返りながら、植物が成長する条件を整理させる。
まとめ～つなげよう	13 ・ 予備	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（日光のめぐみを活用する、人工光型植物工場）	態	○	態②／植物の発芽や成長について学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	教材園に植えかえたインゲンマメを、植物の成長の条件について学んだことを生かしながら、継続して栽培・観察している。	教科書p.28～29の「つなげよう」などを使って、農業などに生かされている場面を紹介する。

2. メダカのたんじょう

5月第4週～、7時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】B(2)動物の誕生 ア(7), イ

【単元の目標】 魚を育てる中で、卵のようすに着目して、時間の経過と関係づけて、魚の発生や成長を調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、観察などに関する技能を身につけるとともに、おもに予想や仮説をもとに、解決の方法を発想する力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。		【単元の評価規準】 知①／魚には雌雄があり、生まれた卵は日がたつにつれて中の様子が変化してかえることを理解している。 知②／魚の発生や成長について、観察などの目的に応じて、器具や機器などを選択し、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	思①／魚の発生や成長について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／魚の発生や成長について、観察などから得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。	態①／魚の発生や成長についての事物・現象に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／魚の発生や成長について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
---	--	---	--	---

次	時	指導計画	重点 記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1 ・ 2	メダカのたんじょう メダカのたまごは、日がたつにつれ、どのように育っていくのだろうか。	思 <input checked="" type="radio"/>	思①／メダカの発生や成長について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	メダカの発生や成長について予想や仮説を発想し、図や言葉を用いて表現したり、観察計画を具体的に立てたりしている。	受精卵の内部がどのように変化してメダカになるのか予想させ、図などで表現させる。
第1次	3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	メダカのたまご メダカのたまごは、どのように育っていくのだろうか。 観察1 メダカのたまごの育ち	知 <input type="radio"/>	知②／メダカを飼育して、雌雄の体の特徴などを観察し、結果を適切に記録しているかを確認する。（行動観察・記録分析）	メダカを飼育して、雌雄の体の特徴や行動などを詳しく観察し、結果を適切に整理して記録している。	雌雄の区別を明らかにさせるなど記録の要点を助言する。
	知 <input checked="" type="radio"/>	知②／解剖顕微鏡などを目的に応じて用意し、安全に正しく使って、メダカの受精卵のようすを観察し、結果を適切に記録しているかを評価する。（行動観察・記録分析）	解剖顕微鏡などを目的に応じて用意し、安全に正しく使って、メダカの受精卵の変化のようすを詳しく観察し、結果を適切に整理して記録している。	解剖顕微鏡の操作方法を再度確かめる。記録の見本を提示する。		
	思 <input type="radio"/>	思②／メダカの発生や成長と、その変化にかかる時間とを関係づけて考察し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	メダカの発生とその変化にかかる時間を関係づけて考察し、自分の予想と比べながら考えを表現している。	観察記録を時系列で並べ、卵の内部の変化をとらえさせる。		
	知 <input checked="" type="radio"/>	知①／メダカには雌雄があり、受精卵は日がたつにつれて中のようにが変化して子メダカが誕生することを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	メダカには雌雄があり、受精卵は卵の中の養分を使って日がたつにつれて体の形ができるなど変化し、やがて子メダカが誕生し、しばらくは腹の中の養分を使って育つことを理解している。	動画などで実感しやすい情報を提示する。受精卵の育ちを順にたどらせる。		
	態 <input type="radio"/>	態①／メダカの卵の成長や雌雄の特徴について、進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを確認する。（行動観察・発言・記述分析）	メダカの飼育や観察に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら、卵の成長のようすを繰り返し意欲的に調べようとしている。	メダカを飼育する水槽、卵を入れた容器、解剖顕微鏡などを、教室など身近な場所に置いて、いつでも観察できるようにし、飼育や観察への意欲が持続するように支援する。		
まとめ～つなげよう	7 ・ 予備	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（マグロの養しょく）	態 <input checked="" type="radio"/>	態②／メダカの誕生について学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	メダカの誕生について学んだことをもとに、いろいろな生物の誕生について見直そうとしている。	観察記録を見直しさせたり、友達の意見や発表を聞かせたりして、ほかの生物の誕生を考えさせる。

3. ヒトのたんじょう

6月第3週～、配当6時間＋予備1時間

【学習指導要領との関連】B(2)動物の誕生 ア(イ), イ

【単元の目標】		【単元の評価規準】		思①／ヒトの母体内での成長について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／ヒトの母体内での成長について、資料調べなどの目的に応じて、器具や機器などを選択し、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。		態①／ヒトの母体内での成長についての事物・現象に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／ヒトの母体内での成長について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。	
ヒトの発生についての資料を活用する中で、胎児のように着目して、時間の経過と関係づけて、ヒトの発生や成長を調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、資料調べなどに関する技能を身につけるとともに、おもに予想や仮説をもとに、解決の方法を発想する力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。							

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	ヒトのたんじょう 母親の体内で赤ちゃんはどのように育っていくのだろうか。	思	○	思①／ヒトの母体内での成長のようすについて、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	ヒトの母体内での成長のようすについて、具体的な体の部分の変化について予想や仮説を発想し、絵や言葉を用いて表現している。	受精卵からどのように変化するのか図などで表現させる。
第1次	2	ヒトの受精卵 ・ヒトは、母親の体内で、どのように育って誕生するのだろうか。 ・資料調べ1 ヒトがたんじょうするまで	知	○	知②／ヒトが母体内で成長していくようすを目的に応じて図鑑やインターネット、模型、養護教諭や医師へのインタビューなどの方法で調べているかを評価する。（行動観察・記録分析）	ヒトが母体内で成長していくようすを目的に応じて図鑑やインターネット、模型、インタビューなどの複数の方法を選択して詳しく調べている。	図書室の図鑑の活用や養護教諭へのインタビューなど、調べる方法を伝える。
	3		知	○	知②／ヒトが母体内で成長していくようすについて調べた結果を適切に記録しているかを確認する。（記録分析）	ヒトが母体内で成長していくようすについて調べた結果を工夫して記録している。	得られた情報の中から自分が必要としているものや理解できた内容についてまとめるよう助言する。
	4		態	○	態①／ヒトの母体内での成長のようすに進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	ヒトの母体内での成長のようすに進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら、体内にいる期間、体の大きさや形、養分の取り入れ方などに注目して、意欲的に調べようとしている。	メダカの誕生の学習から、観点を具体的に例示し、ヒトの誕生についても見通しをもって取り組めるようにする。
5	ヒトがどのように育ってきたのかをまとめて発表しよう。		思	○	思②／ヒトの母体内での成長のようすについて、動物の発生や成長とその変化を関係づけて考察し、表現しているかを評価する。（発言・行動観察）	ヒトの母体内での成長のようすについて、自らの予想や仮説と比べながら動物の発生や成長とその変化を関係づけて考察し、表現している。	ヒトとメダカの育ちがよくわかる資料を提示し、共通点や差異点が見つけられるようにする。
			知	○	知①／ヒトは、母体内で成長して生まれることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	ヒトは母体内で成長して生まれることを具体的な時間の経過と関係づけて理解している。	動画などで実感しやすい情報を提示する。受精卵の育ちを順にたどらせる。「子宮の中のようす」の資料を使って、養分の取り入れ方や母体内のようすを理解できるようにする。
まとめ～つなげよう	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（いろいろな動物のたんじょう）	態	○		態②／ヒトの誕生について学んだことをもとに、いろいろな生物の誕生について見直そうとしている。		集めた資料を見直しさせる。友達の意見や発表を聞かせ、ほかの生物の誕生を考えさせる。
まとめ～ つなげよう ・ 予備	6						

台風と気象情報

7月第1週、配当3時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】B(4)天気の変化 ア(イ), イ

【単元の目標】 雲の量や動きに着目して、それらと天気の変化とを関係づけて、天気の変化のしかたを調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、資料調べなどに関する技能を身につけるとともに、おもに予想や仮説をもとに、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。	【単元の評価規準】※ 知①／天気の変化は、雲の量や動きと関係があることを理解している。 知②／天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できることを理解している。 知③／天気の変化のしかたについて、観察、資料調べなどの目的に応じて、器具や機器などを選択し、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	思①／天気の変化のしかたについて、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／天気の変化のしかたについて、観察、資料調べなどから得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。	態①／天気の変化のしかたについての事物・現象に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／天気の変化のしかたについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
---	---	---	---

※各観点の評価は、「台風と気象情報」「5. 雲と天気の変化」を通して計画している。

次	時	指導計画	重点 記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
第1次	1 ・ 2	台風と気象情報 台風はどのように動き、台風が近づくと天気はどのように変わらるのだろうか。 資料調べ1 台風の動きと天気の変化	知	○ 知③／台風の動きと天気の変化についての資料などを目的に応じて選択し、テレビや新聞、インターネットなどを活用して情報を収集しているかを評価する。（行動観察・記録分析）	台風の動きと天気の変化について、テレビや新聞、インターネットなどを活用して、計画的に情報を収集し、時間的な変化で適切に整理している。	教科書p.56のQRコードを読み取り、リアルタイムのさまざまな気象情報を見せるなどの方法で、関心を高めるとともに、気象情報の種類や集め方を説明する。
			思	○ 思②／台風の動きと天気の変化を関係づけて考察し、自分の考えを表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	台風の動きと天気の変化、天気の変化による災害の状況を関係づけて考察し、自分の考えを表現している。	集めた情報を、時間ごとに整理させ、時間的な変化を読み取らせる。
			態	○ 態①／台風の動きと天気の変化に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら、生活経験を想起したり、調べようとしているかを確認する。（行動観察・発言・記述分析）	台風の動きと天気の変化に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら、幅広く生活経験を想起したり、意欲的に調べようとしている。	映像資料を見せたり、なぜ、台風が近づいてくることがわかるのかを聞いたりして、台風の動きについて関心をもたせる。
第2次	3 ・ 予 備	風や雨とわたしたちのくらし 台風による風や雨は、わたしたちのくらしとどんな関係があるのだろうか。	知	○ 知②／台風による災害には、気象情報などを活用した日ごろからの備えが大切であることを理解しているかを確認する。（記述分析・ペーパーテスト）	台風による災害には、気象情報と地域の情報を活用した日ごろからの備えが大切であることを、具体例をあげながら説明している。	教科書p.53のQRコードを読み取り、台風による被害のようすを視聴させるなどの方法で、必要な備えについて考えさせたり、注意報・警報・特別警報がどんなときに発表されるかを調べさせたりする。
			態	○ 態②／台風とわたしたちのよりよいくらしのあり方について考えようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	台風とわたしたちのよりよいくらしのあり方について、具体的に考えようとしている。	教科書p.59の「台風と人々のくらし」などを使って、台風からの被害を減らす工夫を行いながら、恩恵も受けている例を紹介する。

4. 花から実へ

9月第2週～、配当8時間＋予備1時間

【学習指導要領との関連】B(1)植物の発芽、成長、結実 ア(I), イ

【単元の目標】 植物の結実のようすに着目して、それらにかかる条件を制御しながら、植物の花のつくりや結実を調べることを通して、植物の結実とその条件についての理解をはかり、観察、実験などに関する技能を身につけるとともに、おもに予想や仮説をもとに、解決の方法を発想する力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。		【単元の評価規準】※ 知①／花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先につくとめしべのものが実になり、実の中に種子ができる理解している。 知②／植物の花のつくりや結実について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択し、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	思①／植物の花のつくりや結実について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／植物の花のつくりや結実について、観察、実験などから得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。	態①／植物の花のつくりや結実についての事物・現象に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／植物の花のつくりや結実について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
--	--	---	---	---

※各観点の評価は、「花のつくり」「4. 花から実へ」を通して計画している。

次	時	指導計画	重点 記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	花から実へ 植物は、どのようにして実をつくり、生命を受け継いでいくのだろうか。	態 ○	態①／植物の花が実へと変化し、種子ができることに進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	植物の花が実へと変化し、種子ができることで、新たな生命へと受け継がれることに進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら、そのしくみを意欲的に調べようとしている。	これまでの植物の栽培や観察の経験を思い出させて、毎年、同じように繰り返される植物のサイクルに着目させる。
第1次	2	花のつくり ・ ヘチマのめばなどおばなは、どんなつくりになっているのだろうか。 3 ・ 4 観察1 ヘチマの花のつくり	思 ○	思①／めばなどおばなはの花のつくりの違いについて問題を見いだし、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）	めばなどおばなはの花のつくりの違いについて、1つの花にめしべとおしべがそろった花とも比べながら、問題を見いだし、表現している。	アブラナの花のつくりを思い出させて、めばなどおばなを比べる視点を助言する。
	3		知 ○	知②／顕微鏡などの器具を目的に応じて用意し、正しく扱いながら、花のつくりや花粉を観察しているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	顕微鏡などの器具のしくみも理解しながら、適切に操作し、花のつくりや花粉を観察している。	顕微鏡の操作方法を再度確かめてから、実際に見える映像などを提示して観察させる。
	4		思 ○	思②／めしべやおしべの観察結果を考察する中で、おしべの花粉がめしべに運ばれることを表現しているかを確認する。（発言・記述分析）	1つの花にめしべとおしべがそろった花とも比べながら、ヘチマのめしべやおしべの観察結果を考察し、おしべの花粉がめしべに運ばれることを表現している。	アブラナの花のつくりの学習を思い出させて、ヘチマの実になる部分がどこかを聞き、その花は、めばなどおばなのどちらかを聞くといったように、1つずつ確認していく。
第2次	5	花粉のはたらき ・ 受粉しなければ、実はできないのだろうか。 実験1 受粉と実のでき方	思 ○	思①／植物の結実について予想や仮説をもち、解決の方法を発想し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	動物の受精の学習内容を生かしながら、植物の結実について予想や仮説を発想し、条件に着目した実験を計画し、表現している。	結実の条件についての考えを明らかにし、実験方法について考えさせる。
	6		知 ○	知②／植物の結実の条件について調べ、その過程や結果を適切に記録しているかを確認する。（行動観察・発言・記述分析）	植物の結実の条件について、受粉させない花と比較しながら計画的に詳しく実験を行い、実験の方法や結果などを適切に記録している。	変える条件を確認しながら、実験・記録させる。受粉させるめばなど受粉させないめばなに、それぞれ違う目印をつけて区別しておく。
	7		思 ○	思②／植物の結実について、実験結果をもとに受粉と結実を関係づけて考察し、自分の考えを表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	植物の結実について、実験結果をもとに昆虫などのはたらきによって受粉することをとらえ、予想や仮説と照らし合わせながら考察している。	変える条件は「受粉のあり・なし」であることを確認して、考察させる。
	8	まとめ～つなげよう ・ 予備	知 ○	知①／受粉するとめしべのものが実になり、実の中に種子ができることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	昆虫などによって受粉するとめしべのものが実になり、実の中に種子ができ、その種子がまた発芽して生命が受け継がれていくことを理解している。	記録カードなどをもとに、これまでの学習を振り返りながら理解させる。
まとめ～つなげよう	8	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（いろいろな花粉の運ばれ方、リンゴ農家とマメコバチ）	態 ○	態②／植物の受粉と結実について学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	植物の受粉と結実について学んだことを、植物と動物のかかわりや生命の連続性といった、つながりのある視点で見直し、生かそうとしている。	教科書p. 76～77の「つなげよう」などを使って、多様な花粉の運ばれ方や、生活に生かされている場面を紹介する。

5. 雲と天気の変化

10月第1週～、配当7時間＋予備1時間

【学習指導要領との関連】B(4)天気の変化 ア(7)(イ), イ

【単元の目標】 雲の量や動きに着目して、それらと天気の変化とを関係づけて、天気の変化のしかたを調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、観察、資料調べなどに関する技能を身につけるとともに、おもに予想や仮説をもとに、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。	【単元の評価規準】※ 知①／天気の変化は、雲の量や動きと関係があることを理解している。 知②／天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できることを理解している。 知③／天気の変化の仕方について、観察、資料調べなどの目的に応じて、器具や機器などを選択し、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	思①／天気の変化の仕方について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／天気の変化の仕方について、観察、資料調べなどから得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。	態①／天気の変化の仕方についての事物・現象に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／天気の変化の仕方について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
--	--	---	---

※各観点の評価は、「台風と気象情報」「5. 雲と天気の変化」を通して計画している。

次	時	指導計画	重点 記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	雲と天気の変化 雲と天気には、どんな関係があるのだろうか。 観察1 天気が変わるとの雲のようす	思 ○	思①／雲と天気の変化について問題を見いだし、自分の考えを表現しているかを確認する。（発言・記述分析）	生活経験や既習事項、雲のようすの資料などをもとに、雲と天気の変化について具体的な問題を見いだし、自分の考えを表現している。	雨が降り出すときのようすを、生活経験などをもとに思い出し、話し合うことで、雲のようすに着目できるようにする。
			態 ○	態①／雲と天気の変化に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	雲と天気の変化に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら、時間変化にも着目して、雲のようすを調べようとしている。	教科書p. 80～81の2枚の写真を見比べさせ、雨の降り出すときに空が暗くなることを思い出させる。
第1次	2 ・ 3	雲のようすと天気の変化 ・ 雲のようすと天気の変化には、どんな関係があるのだろうか。 観察1 天気が変わるとの雲のようす	思 ○	思①／天気の変化と雲の量や動きなどの関係について、予想や仮説をもとに、自らの考えを表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	天気の変化と雲の量や動きなどの関係について、予想や仮説をもとに、自らの考えを表現し、調べる方法も立案している。	雲のようすを「雲の量」「雲の色」「雲の形」「雲の動き」と、観点ごとに小分けにして、予想させるとよい。
			知 ○	知③／空を観察しながら、1日の雲の量や動きなどを調べ、結果を適切に記録しているかを評価する。（行動観察・記録分析）	空を観察しながら、1日の雲の量や動きなどを調べ、結果を適切に記録し、時間変化にも着目して整理している。	教科書p. 83に例示がある記録カードのように、観察する観点の項目だけを、あらかじめ書かせておくとよい。
			知 ○	知①／天気の変化は、雲の量や動きと関係があることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	天気の変化は、雲の量や動きと関係があることを理解し、雲の種類と天気の変化の関係についても調べている。	雲のようすの変化を、「雲の色は黒っぽくなった。」というように観点ごとにまとめさせ、とらえさせるとよい。
第2次	4 ・ 5	天気の変化のきまり ・ 雲の動きや天気の変化には、何かきまりがあるのだろうか。 資料調べ1 雨の動きと天気の変化のきまり	思 ○	思②／収集した気象情報から考察して、天気の変化の規則性を見いだし、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	収集した気象情報を的確に整理し、雲画像やアメダスと各地の空のようすの関係をとらえながら、天気の変化の規則性を見いだし、表現している。	教科書p. 88の10月8日正午以外の雲画像やアメダス降水量の図にも、4つの地点の印をつけて、各地の空のようすとの対応関係を確認させるとよい。
			知 ○	知②／天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	気象情報を収集した経験を生かして、映像などの気象情報を的確に理解しながら、天気の変化を予想できることを理解している。	観察1で観察した日時の雲画像を提示し、広い範囲での雲の動きなどから天気の変化を予想できることをとらえさせる。
第3次	6	雨や雪とわたしたちのくらし 雨や雪は、わたしたちのくらしとどんな関係があるのだろうか。	知 ○	知③／雨や雪などの天気の変化による災害や備え、もたらされる多くの恵みについて、資料を目的に応じて選択して調べているかを確認する。（行動観察・記録分析）	雨や雪などの天気の変化による災害や備え、もたらされる多くの恵みについて、地域の特徴と照らし合わせながら、資料を目的に応じて選択して調べている。	これまでの学習を振り返り、なぜ、天気の予想が行われてきたのか、その理由を、くらしと結びつけながら考えさせる。
			態 ○	態②／天気の変化は、わたしたちの生活に不可欠であることから、よりよくくらしのあり方について考えようとしているかを確認する。（行動観察・発言・記述分析）	天気の変化は、わたしたちの生活に不可欠であることから、よりよくくらしのあり方について、具体例を挙げながら、考えようとしている。	もし、雨がほとんど降らない砂漠だったら、1年中、氷に覆われた南極だったら、というように、天気の変化が少ない地域と比較して考えさせるとよい。
まとめ～つなげよう	7 ・ 予備	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（天気予報で食品ロスを防ぐ）	態 ○	態②／雲と天気の変化について学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	雲のようすや気象情報をもとにした天気の予想を日常生活で活用し、実際の天気と比べながら、自らの予想や考えを修正しようとしている。	教科書p. 95「つなげよう」のような天気予報が日常生活・社会に活用されている事例を紹介する。

6. 流れる水のはたらき

10月第4週～、配当11時間+予備1時間

【単元の目標】		【単元の評価規準】				【学習指導要領との関連】B(3) 流れる水の働きと土地の変化 ア(ア)(イ)(ウ), イ	
知①／流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりするはたらきがあることを理解している。 知②／川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあることを理解している。 知③／雨の降り方によって、流れる水の量や速さは変わり、増水により土地のようすが大きく変化する場合があることを理解している。 知④／流れる水のはたらきと土地の変化について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択し、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	思①／流れる水のはたらきと土地の変化について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／流れる水のはたらきと土地の変化について、観察、実験などから得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。	思①／流れる水のはたらきと土地の変化についての事物・現象に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 思②／流れる水のはたらきと土地の変化について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。					

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	流れる水のはたらき 流れる水には、どんなはたらきがあり、土地をどのように変化させるのだろうか。	思		思①／流れる水のはたらきについて問題を見いだし、自分の考えを表現しているかを確認する。（発言・記述分析）	生活経験や、川のようすの資料をもとに、流れる水のはたらきについて具体的な問題を見いだし、自分の考えを表現している。	蛇行した川の写真から、曲がった所の外側と内側の見た目の違いについてあげさせ、その原因が何かを考えさせる。
第1次	2	地面を流れる水 ・流れる水には、どんなはたらきがあるのだろうか。 ・実験1 流れる水と地面のようす	思	○	思①／流れる水のはたらきについて、予想や仮説をもち、条件に着目しながら解決の方法を発想し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	流れる水のはたらきについて、根拠のある予想や仮説をもち、条件に着目しながら実験を計画し、表現している。	雨水の流れなかった場所と流れた場所を比較して観察させ、流れた場所では地面が削られた跡などがあることを見つけさせる。
	3		知		知④／目的に応じて器具を用意し、正しく扱いながら、流れる水のはたらきによる地面の変化を調べているかを確認する。（行動観察・記録分析）	器具を正しく使って、流れる水の速さの違いに着目しながら、流れる水による地面の変化を調べる実験方法を工夫し、計画的に実験している。	土を削っているようす、土が運ばれているようすというように、調べたい内容を整理させ、それぞれを調べるために、川のどの部分のどのようなようすを観察すればよいか、視点を明確にさせていく。
	4		知	○	知①／流れる水には、地面を侵食したり、土などを運搬したり、堆積させたりするはたらきがあることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	流れる水には、地面を侵食したり、土などを運搬したり堆積させたりするはたらきがあることを、流れる水の速さと関係づけて理解している。	川の曲がった所や傾きが緩やかな所を動画撮影し、削られているようすや土が積もっていくようすに気づかせる。
第2次	5	流れる水の量が変わるとき ・水の量が増えると、流れる水のはたらきが、変化するのだろうか。 実験2 水の量が変化したときのはたらき	知		知④／流れる水の量の変化による地面の変化の違いを調べ、得られた結果を適切に記録しているかを確認する。（行動観察・記録分析）	流れる水の量の変化による地面の変化の違いを調べる実験方法を工夫し、水の量を的確に制御して、計画的に実験を行い、得られた結果を適切に記録している。	複数の実験装置が用意できるときは、グループによって、流れる水の量を変え、違いを比べるようにすれば、制御する条件などを共有化しやすい。
	6		知	○	知③／流れる水の量が変化すると、侵食や運搬のはたらきが変化することを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	流れる水の量が変化すると、侵食や運搬のはたらきが変化することを、実際の川にも当てはめながら理解している。	実験2の結果をもとに、流れる水の量が変化したときの侵食や運搬のはたらきの変化について、整理させる。
第3次	7	川の流れとそのはたらき 実際の川でも、同じようなはたらきがあるのだろうか。 観察1 川原や川岸のようす	知	○	知④／野外観察を計画的かつ安全に行ったり、映像資料などを活用して調べたりしているかを評価する。（行動観察・記録分析）	野外観察を計画的かつ安全に行ったり、映像資料などを活用して調べたりして、流れる水のはたらきという視点で、適切に記録している。	流水実験での結果やまとめを振り返せながら、教科書p.96~97などの実際の川の写真を見せ、川のどこを観察すればよいか、発表させる。
	8		思	○	思②／実際の川での流れる水のはたらきと土地の変化について、関係づけて考察し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	実際の川での流れる水のはたらきと土地の変化について、流水実験で見いだした決まりを実際の川に当てはめながら、関係づけて考察し、表現している。	実験1の曲がって流れている所の結果やまとめを振り返せて、実際の川にも当てはまるかどうかを考えさせる。
	9	実際の川でも、流れる場所によって、川のようすに違いがあるのだろうか。 資料調べ1 川の流れる場所によるちがい	知	○	知②／川の上流と下流によって、川幅や水の流れの速さ、川原の石の形や大きさなどに違いがあることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	川の上流と下流によって、川幅や水の流れの速さに違いがあることや、上流では大きな角張った石が多く見られることから侵食や運搬のはたらきが大きく、下流では小さくて丸い石や砂が多く見られることから堆積のはたらきが大きいことを理解している。	流水実験と現地の観察、写真・資料などをもとに、川の上流と下流の水の流れの速さによる違いについて考えさせ、川原の石や川幅の違いを理解させる。
			態	○	態①／川の上流や下流のようすに進んでかかわり、他者とかかわりながら、川の幅や水の流れ、石や土のようすなどに注目して、川の流れる場所による違いを意欲的に調べようとしている。	川の上流や下流のようすに進んでかかわり、他者とかかわりながら、川の幅や水の流れ、石や土のようすなどに注目して、川の流れる場所による違いを意欲的に調べようとしている。	身近な地域の川の特徴的な地形などを紹介して、流れる水のはたらきと実際の川の関係についての関心を高める。
第4次	10	川とわたしたちのくらし 川を流れる水は、わたしたちのくらしとどんな関係があるのだろうか。	知		知③／流れる水の速さや量が変わることで起こる災害があることや、人々やそのくらしを災害から守る取り組みについて理解しているかを確認する。（記述分析・ペーパーテスト）	流れる水の速さや量が変わることで起こる災害があることや、人々やそのくらしを災害から守る取り組みについて、地域の特徴と照らし合わせながら理解している。	流水実験で、川が決壊してしまった経験があれば、なぜ、決壊してしまったのか、どこが決壊していたか、決壊しないためにはどうすればよいかなど、振り返りながら話し合いを行うとよい。
まとめ～つなげよう～ ・予備	11	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（雨水をたくわえるスタジアム）	態	○	態②／流れる水のはたらきについて学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	流れる水のはたらきについて学んだことを学習や生活に生かし、地域の特性を見直そうとしている。	4年の水の流れと地面の傾きも振り返りながら、地域の地理的・地形的な特徴への関心を高める。

7. ふりこのきまり

11月第4週～、配当6時間＋予備1時間

【学習指導要領との関連】A(2)振り子の運動 ア(ア), イ

【単元の目標】		【単元の評価規準】		【思】	
振り子が1往復する時間に着目して、おもりの重さや振り子の長さなどの条件を制御しながら、振り子の運動の規則性を調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、実験などに関する技能を身につけるとともに、おもに予想や仮説をもとに、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。		知①／振り子が1往復する時間は、おもりの重さなどによっては変わらないが、振り子の長さによって変わることを理解している。 知②／振り子の運動の規則性について、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択し、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。		思①／振り子の運動の規則性について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／振り子の運動の規則性について、実験などから得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。	態①／振り子の運動の規則性についての事物・現象に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／振り子の運動の規則性について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	ふりこのきまり 振り子の振れ方には、何かきまりがあるのだろうか。	思		思①／振り子のきまりについて問題を見いだし、自分の考えを表現しているかを確認する。（発言・記述分析）	生活経験や、振り子が振れるようすをもとに、振り子のきまりについて具体的な問題を見いだし、自分の考えを表現している。	振れ幅やおもりの重さ、振り子の長さを変えた振り子の振れ方の違いを見せる。
第1次	2	ふりこが1往復する時間 振り子が1往復する時間は、どんな条件で変わるのだろうか。 活動 ふりこをふってみよう	思	○	思①／振り子の運動の変化とその要因について予想や仮説をもち、条件に着目して解決の方法を発想し、表現しているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	振り子の運動の変化とその要因について根拠のある予想や仮説をもち、正確に調べるために条件に着目して複数回の実験を計画し、表現している。	振れ幅の違う振り子、おもりの重さが違う振り子、糸の長さが違う振り子を振ってその違いに気づかせ、振れ方が違う要因を考えさせる。
			態	○	態①／振り子の運動に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	振り子の運動について、振れ幅、おもりの重さ、振り子の長さのそれぞれの要因を、意欲的に考えようとしている。	多様な発想を認めるとともに、「どうすればそれを確かめられるかな」などと問い合わせ、振り子の運動の規則性を調べる意欲をもたせる。
	3	振れ幅を変えると、1往復する時間は変わるのだろうか。 実験1 ふれはばを変える	知	○	知②／振り子の運動の規則性を調べる工夫をし、それぞれの実験器具を目的に応じて用意し、安全に正しく操作し、計画的に実験しているかを評価する。（行動観察・記録分析）	振り子の運動の規則性を調べる工夫をし、それぞれの実験器具を目的に応じて用意し、安全に正しく操作し、計画的に正確に実験している。	変える条件と変えない条件を確認する。平均値から大きく外れた記録はやり直すことを知らせる。
	4	おもりの重さを変えると、1往復する時間は変わるものだろうか。 実験2 おもりの重さを変える	知		知②／振り子の運動の規則性を調べ、その過程を適切に記録し、結果を適切に計算して記録しているかを確認する。（行動観察・記録分析）	振り子の運動の規則性を調べ、その過程を適切に記録し、結果を定量的に正確に計算して記録している。	平均の求め方を確認する。必要に応じて計算機を使用させる。
	5	振り子の長さを変えると、1往復する時間は変わるものだろうか。 実験3 ふりこの長さを変える	思	○	思②／振り子の運動の変化とその要因とを関係づけて考察し、表現しているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	振り子の運動の変化とその要因とを誤差を認識して関係づけて考察し、表現している。	自分や友達のグループの記録と比較して、結果の妥当性を確認し、全体の傾向をとらえさせる。
			知	○	知①／振り子が1往復する時間は、おもりの重さや振れ幅に関係なく、振り子の長さによって変わることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	振り子が1往復する時間は、おもりの重さや振れ幅に関係なく、振り子の長さによって変わることから、振り子の1往復する時間を自由に変えられることを理解している。	長さが極端に異なる振り子を見せ、振り子が1往復する時間は、振り子の長さによって変わることを理解させる。
まとめ～つなげよう	6	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（ゆれを小さくするくふう）	態	○	態②／振り子の運動の規則性を利用したものづくりをしたり、振り子の運動の規則性について学んだことを生活に生かそうとしたりしているかを評価する。（行動観察・発言・作品分析）	振り子の運動の規則性を利用したものづくりや、振り子の運動の規則性について学んだことを生かして、いろいろなもののがしくみを進んで見直し、行動しようとする。	振り子の規則性を使ったおもちゃの实物を提示したり、教科書p.188の「ものづくり広場」を紹介したりする。
・ 予 備							

8. もののとけ方

1月第2週～、配当15時間＋予備1時間

【学習指導要領との関連】A(1)物の溶け方 ア(7)(イ)(ウ), イ

【単元の目標】 ものが水に溶ける量やようすに着目して、水の温度や量などの条件を制御しながら、ものの溶け方の規則性を調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、実験などに関する技能を身につけるとともに、おもに予想や仮説をもとに、解決の方策を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。		【単元の評価規準】 知①／ものが水に溶けても、水とともにとを合わせた重さは変わらないことを理解している。 知②／ものが水に溶ける量には、限度があることを理解している。 知③／ものが水に溶ける量は水の温度や量、溶けるものによって違うこと、また、この性質を利用して、溶けているものを取り出すことができるなどを理解している。 知④／ものの溶け方について、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択し、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	思①／ものの溶け方について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／ものの溶け方について、実験などから得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。	態①／ものの溶け方についての事物・現象に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／ものの溶け方について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
---	--	---	--	---

次	時	指導計画	重点 記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1 ・ 2	もののとけ方 食塩などが水に溶けるときのようすを、観察してみよう。	思	思①／ものの溶け方について問題を見いだし、自分の考えを表現しているかを確認する。（発言・記述分析）	生活経験や、食塩が水に溶けるようすをもとに、ものの溶け方について具体的な問題を見いだし、自分の考えを表現している。	水に溶けて見えなくなった食塩のようすを、生活経験などをもとに想像して図や文に表し、話し合うことで、「ものが水に溶けるとはどういうことか」を考えられるようにする。
			態	○ 態①／ものを水に溶かすことに進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	ものを水に溶かすことに進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら、ものの溶け方や溶けたもののゆくえなどの疑問について意欲的に調べようとしている。	食塩を水に溶かしてみて、水に溶けると均一に広がって、透き通って見えなくなることに着目させる。
第1次	3 ・ 4	水にとけたものの重さ 水に溶けたものの重さは、どうなるのだろうか。 実験1 水にとけたものの重さ	思	○ 思①／ものの溶け方や溶けたもののゆくえについて、予想や仮説をもとに、条件に着目して解決の方法を発想し、表現しているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	水に溶けた食塩などのゆくえや、水に溶けた後の水溶液の重さなどについて、予想や仮説をもとに、条件に着目して解決の方法を計画的に発想し、表現している。	食塩を水に溶かしたときのようすを観察しながら、溶けたもののゆくえや重さなどを考えさせる問いかけを行う。
			知	○ 知①／ものが水に溶けても、水とともにとを合わせた重さは変わらないことを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	ものが水に溶けると、溶かしたものは水の中に存在していて、水とともにとを合わせた重さは溶かす前後で変わらないことを理解している。	食塩の重さが残っていることから、水溶液中に食塩が存在していることを説明する。
第2次	5 ・ 6	ものが水にとける量 ・ ものが水に溶ける量には、限りがあるのだろうか。 実験2 食塩やミョウバンが水にとける量	思	思①／ものが水に溶ける量について、予想や仮説をもとに、条件に着目して解決の方法を発想し、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）	ものが水に溶ける量について、生活経験をもとに予想や仮説を発想し、条件に着目して実験を計画し、表現している。	ものが水に溶けると、溶かしたものは水の中に存在することを確認する。
			知	○ 知④／ものの溶け方の違いを調べる工夫をし、電子てんびんやメスシリンダーを目的に応じて用意し、安全に正しく操作して実験をしているかを評価する。（行動観察）	ものの溶け方の違いを調べる工夫をし、電子てんびんやメスシリンダーを目的に応じて用意し、安全に正しく操作して定量的に実験をしている。	電子てんびんやメスシリンダーの操作方法を確認する。
			知	○ 知②／ものが水に溶ける量には、限度があることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	ものが水に溶ける量には、限度があることを詳しく理解し、説明できる。	自分や友達の記録を見直したり、もう一度実験を行ったりして再確認する。
7 ・ 8	7 ・ 8	水の量を増やすと、水に溶けるものの量は、どうなるのだろうか。 実験3 水の量とものがとける量	知	知③／水の量を増やすと、水に溶けるものの量も増えることを理解しているかを確認する。（記述分析・ペーパーテスト）	水の量を増やすと、水に溶けるものの量も増えることを実験結果をもとに説明できる。	決まった水の量にものを何g入れると溶け残りが出たか、また水の量を増やしたときにどうなったかを振り返させる。
			思	○ 思②／ものが溶ける量を水の温度と関係づけて考察し、表現しているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	ものが溶ける量を水の温度と関係づけて考察し、ものによって水の温度で溶ける量が違うと考え、表現している。	温度と溶けた量との関係をグラフ化して、温度による溶けた量の変化を読み取らせる。
9 ・ 10	9 ・ 10	水の温度を上げると、水に溶けるものの量は、どうなるのだろうか。 実験4 水の温度とものがとける量	知	○ 知③／ものが水に溶ける量は、水の温度、溶けるものによって違いがあることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	ものが水に溶ける量は、水の温度、溶けるものによって違いがあることを実験結果をもとに説明できる。	ミョウバンは温度が上がるとよく溶けるが、食塩は温度が上がつても溶ける量が変わらないことなどを記録から確認させる。
			思	○ 思②／ものが溶ける量を水の温度と関係づけて考察し、表現しているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	溶けているものを取り出す方法を工夫し、ろ過器具などを目的に応じて用意し、操作の意味を理解しながら、安全に正しく使って溶けているものを取り出し、実験している。	教科書p. 147でろ過のしかたを確認する。
第3次	11 ・ 12	とかしたものを取り出すには 水溶液を冷やすと、溶けているものを取り出せるのだろうか。 実験5 水よう液を冷やす	知	知④／溶けているものを取り出す方法を工夫し、ろ過器具などを目的に応じて用意し、安全に正しく使って実験をしているかを確認する。（行動観察）	溶けているものを取り出す方法を工夫し、ろ過器具などを目的に応じて用意し、操作の意味を理解しながら、安全に正しく使って溶けているものを取り出し、実験している。	ミョウバンや食塩をたくさん溶かすにはどうすればよいかを思い出させて、その逆の操作をすることで溶けたものを取り出せることに気づかせる。
			知	○ 知③／水溶液の性質を利用して、水に溶けているものを取り出すことができるかを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	水の量によって、ものが水に溶ける量が違う性質を利用して、水に溶けたものを取り出すことができる。	教科書p. 150の「塩をつくる」やp. 153の「塩をつくる工場」、p. 189の「ものづくり広場」を紹介する。
まとめ～ つなげよう ・ 予備	15	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（塩をつくる工場）	態	○ 態②／ものが水に溶けるときの規則性について学んだことを、工場での塩をつくる流れなどを例に、学習や生活で幅広く見直そうとしている。	ものが水に溶けるときの規則性について学んだことを、工場での塩をつくる流れなどを例に、学習や生活で幅広く見直そうとしている。	教科書p. 150の「塩をつくる」やp. 153の「塩をつくる工場」、p. 189の「ものづくり広場」を紹介する。

9. 電流と電磁石

2月第3週～、配当12時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】A(3)電流がつくる磁力 ア(ア)(イ)

【単元の目標】		【単元の評価規準】		思①／電流がつくる磁力について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／電流がつくる磁力について、実験などから得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。 思③／電流がつくる磁力について、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択し、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。		態①／電流がつくる磁力についての事物・現象に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／電流がつくる磁力について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。	
電流の大きさや向き、コイルの巻数などに着目して、これらの条件を制御しながら、電流がつくる磁力を調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、実験などに関する技能を身につけるとともに、おもに予想や仮説をもとに、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。							

次	時	指導計画	重点 記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て	
単元導入	1	電流と電磁石 電磁石をつくり、ゼムクリップを使って、電磁石のはたらきを調べてみよう。	思	思①／電磁石のはたらきについて問題を見いだし、自分の考えを表現しているかを確認する。（発言・記述分析）	電磁石が鉄を引きつけるようすをもとに、電磁石のはたらきについて具体的な問題を見いだし、自分の考えを表現している。	演示用の電磁石をつくりおき、電流が流れたときだけ鉄がつくことから、電磁石の性質を考えさせる。	
第1次	2 ・ 3 ・ 4	電磁石の極の性質 ・電磁石と棒磁石を比べてみよう。 活動1 電磁石をつくろう 活動2 電磁石のはたらきを調べてみよう	知 思	知③／電磁石を正しくつくり、電流を流してそのはたらきを調べ、気づきや疑問を適切に記録しているかを確認する。（行動観察・記録分析） 思①／電磁石のはたらきについて、永久磁石と比べることで問題を見いだし、表現しているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	電磁石を正しくつくり、電流を流してそのはたらきを永久磁石と比較しながら詳しく述べ、見つけた疑問を、図など用いて適切に記録している。 電磁石のはたらきについて、永久磁石と似ているところや違うところに注目しながら比べることで、問題を見いだし、表現している。	電磁石のつくりかたを確認する。永久磁石の性質を想起させる。 永久磁石の性質について思い出させ、電磁石の電流に注目させる。	
	5 ・ 6 ・ 7	電磁石には、どのような性質があるのだろうか。 実験1 電磁石のN極、S極	思 思 知 思	思①／電磁石に電流を流したときの極の変化とその要因について予想や仮説をもち、条件に着目して解決の方法を発想し、表現しているかを確認する。（発言・記述分析） 思②／電磁石の極の変化と電流の向きを関係づけて考察し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析） 知①／電流の流れているコイルは、鉄心を磁化するはたらきがあり、電流の向きが変わると、電磁石の極が変わることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト） 思①／電磁石の導線に電流を流したときに起こる現象に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）	電磁石に電流を流したときの極の変化とその要因について、永久磁石の性質をもとに予想や仮説をもち、条件に着目して解決の方法を発想し、表現している。 電磁石の極の変化と電流の向きを関係づけて、永久磁石の性質と比較しながら考察し、表現している。 コイルに鉄心を入れて電流を流すと鉄心を磁化するはたらきがあることや、永久磁石の極は変わらないが、電磁石は電流の向きが変わると極も変わることを理解している。 電磁石の導線に電流を流したときに起こる現象に進んでかかわり、他者とかかわりながら、永久磁石の性質を思い出し、自分の考えを調整して、電磁石のはたらきを調べようとしている。	永久磁石の性質を調べる方法を想起させる。 電磁石をつなないだ回路や乾電池の+極・-極、電磁石のN極・S極を用紙に明記させて、電流の向きと極との関係を見てわかるようにする。 自分や友達の記録を見直したり、もう一度実験を行ったりして再確認する。 「方位磁針は、周りに何もないN極が北を指し、近くにS極があればN極が引きつけられる」「乾電池をつなぐ向きを変えると、電流の向きが変わる」といった操作の意味を1人ひとりが把握し、主体的に実験に取り組むことができるようにする。	
第2次	8 ・ 9 ・ 10 ・ 11	電磁石の強さ ・電磁石を強くするには、どうすればよいのだろうか。 実験2 電磁石の強さ	思 知 思 知	思①／電磁石に電流を流したときの電磁石の強さとその要因について予想や仮説をもち、条件に着目して解決の方法を発想し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析） 知③／電流計などを目的に応じて用意し、安全に正しく使って、電磁石の強さの変化を計画的に調べ、その過程や結果を適切に記録しているかを評価する。（行動観察・記録分析） 思②／実験の結果から、電磁石の強さと電流の大きさやコイルの巻数を関係づけて考察し、表現しているかを確認する。（発言・記述分析） 知②／電磁石の強さは、電流の大きさやコイルの巻数によって変わることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	電磁石に電流を流したときの電磁石の強さとその要因について既習事項を根拠に予想や仮説をもち、条件に着目して解決の方法を発想し、表現している。 電流計などを目的に応じて用意し、安全に正しく使って、電磁石の強さの変化を計画的に詳しく調べ、その過程や結果を定量的に適切に記録している。 実験の結果から、電磁石の強さと電流の大きさやコイルの巻数を関係づけて考察し、永久磁石との違いと合わせて表現している。 永久磁石が鉄を引きつける強さは変わらないが、コイルに流れる電流を大きくしたり、コイルの巻数を増やしたりすると、電磁石が鉄を引きつける強さは強くなることを理解している。	モーターの回る速さは電流の大きさによって変わったことなどから、電磁石も電流の大きさやコイルの巻数によって強さが変化するのではないかということに着目させる。 電流計を使った回路の組み方、目盛りの読み方を再確認させる。変える条件・変えない条件を設定してから調べさせる。 電流の大きさやコイルの巻数を変えたときの電磁石の強さの変化を確認する。 自分や友達の記録を見直したり、もう一度実験を行ったりして再確認する。	
まとめ～つなげよう ・ 予備	12	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（電磁石を利用した未来の乗り物、モーターを利用したもの）	態	態②／電磁石の性質やはたらきについて学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・作品分析）	電磁石の性質やはたらきについて学んだことを、リニアモーターカーなどを例に、学習や生活で幅広く見直そうとしている。	教科書p. 170-171の「つなげよう」やp. 190-191の「ものづくり広場」を紹介する。	